

学生の意識からみる「教職論」の課題

Tasks of “Theory of Teaching Profession” based on students’ response

神谷康夫*

Yasuo Kamiya

Summary

“Theory of Teaching Profession” plays a major role in motivating students who wish to become a teacher, and can be positioned as an introduction to the teaching profession course. The aim of this study is to grasp and analyze the students' response on teaching profession and the “Theory of Teaching Profession” class. Hence by applying the achievements of this research, I'll continue to work for the further improvement of “Theory of Teaching Profession”.

キーワード：教職論 教員 学生の意識 アンケート調査

Keywords：Theory of Teaching Profession, teacher, students' response, questionnaire survey

1. はじめに

平成 28 年に教育職員免許法、次いで平成 29 年に教育職員免許法施行規則が改正され、平成 31 年に新しい教職課程が実施された。そして、改正後の教職課程で必修とされた「教育の基礎的理解に関する科目」の中で、「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）」を含んでいる科目を、本学では「教職論」という科目名で設定している。

筆者は高等学校で教員及び管理職として永年勤めてきた後、今年度から本学に勤め、授業では前期に「教職論」を担当した。これまでの経験を活かして授業を進めようと努める中で、学生の教員希望及び「教職論」の授業の取組状況を把握したいと考え、6 月に「教職論」を受講している学生たちに教職及び「教職論」についてのアンケート調査を実施した。本稿では、これらを基に、「教職論」の授業の課題を分析し、本学では教職課程の入門と位置付けられている「教職論」のさらなる充実を図り、教員希望の学生たちへの指導に資するように努めていきたい。

2. 本学の教職課程

2.1 「教育の基礎的理解に関する科目」の教育課程

1 年前期

教職論 （教職の意義及び教員の役割・職務内容）
教育原理 （教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）

1 年後期

教育社会学（教育に関する社会的、制度的又は経営的事項）

2 年前期

教育心理学（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）

2 年後期

教育課程論（教育課程の意義及び編成の方法）

3 年後期

特別支援教育の理論と指導方法
（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解）

本学では上記のように「教育の基礎的理解に関する科目」の教育課程を設定し、各科目 2 単位で 6 科目を必

* 教職教室教授

修としている。()内は教育職員免許法施行規則にある各科目の内容である。「教職論」は、学校とはどういう所か、教育はどのようになされるのか、教職とはどういう仕事かということを学び考える科目であり、学途中で、教員になることの意義と意志とを確認していくことができる。それゆえ、教職課程の入門として位置づけられているのであり、教員希望の学生のモチベーションを維持し高めるのに大きな役割を果たしている。

2.2 本学の教職免許状取得状況

表1 学部卒業者の教員免許状取得状況(年度)

	2016	2017	2018	2019	2020
中学数学	13	18	21	15	10
高校数学	12	21	13	10	12
情報	2	5	4	7	1
工業	14	20	20	10	18
実人数	31	45	39	28	28

表1から分かるように、本学の教員免許状取得者は、毎年、実人数30名前後である。しかし、1年次に「教職論」及び「教育原理」を受講する学生は100名を超えており、学年進行とともに教職課程を受講する人数は減少している。学部の専門科目の学習が深まるにつれ、教職課程を履修する負担感が増すことや、就職希望の変化が理由と考えられる。

2.3 本学の教員養成の目標及び計画

本学では以下の3点の教員養成の目標を掲げている。

- ・ 高度な知識と実務的な能力
- ・ 他者の尊重、愛情、使命感、責任感
- ・ 広い視野と教養、柔軟な思考力

そして、この目標を達成するための計画として、1年次は、

「教職科目において、これまで受けてきた教育を振り返り、教育に関する基礎的・基本的な知識や考え方を修得するとともに、教育に対する使命を理解し、教員をめざそうとする意欲・態度を身につける。」

としている。学年進行とともに教職課程履修者が減少していく現状に対し、「教職論」の役割は、とりわけ、「教員を目指そうとする意欲・態度」の維持・育成にあると考えている。

3. アンケート調査の結果と分析

3.1 調査方法と調査対象

令和3年6月21日、Teamsにアンケートを提示し6月28日を提出期限とした。対象は「教職論」を受講している学生109名で回答者は93名だが、教員免許状取得を目指さず教養として「教職論」を受講している、回答の指示に従っていない等を除いた81名を調査の対象とした。

3.2 教職についてのアンケート

3.2.1 「教職論」を履修する理由

- ①教員が第一希望 31名
- ②就職の選択の一つとして教員を考えている 27名
- ③資格として教員免許状がほしい 23名

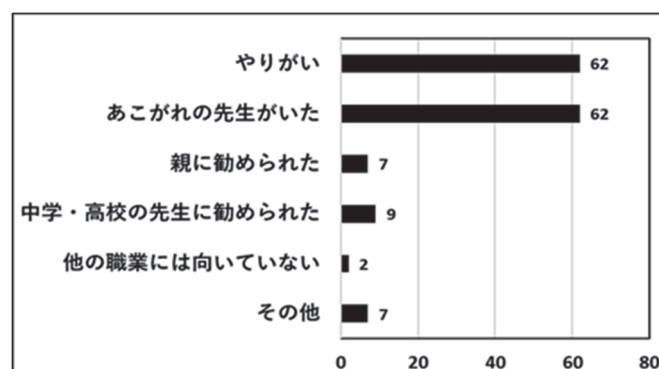
学生が一人でも多く、最後まで希望を維持し実現できるように指導したい。そのためにも、早い段階(2年生までに)で教職に対する理解を深めさせる必要があると考えている。

3.2.2 取得を希望する免許教科(複数回答あり)

- 中学数学 41名
- 高校数学 42名
- 情報 23名
- 工業 21名

数学が最も多く、中学と高校の数学の両方の取得を希望している学生が17名いる。工業の希望者が増すことが望まれる。

3.2.3 教員を希望する理由

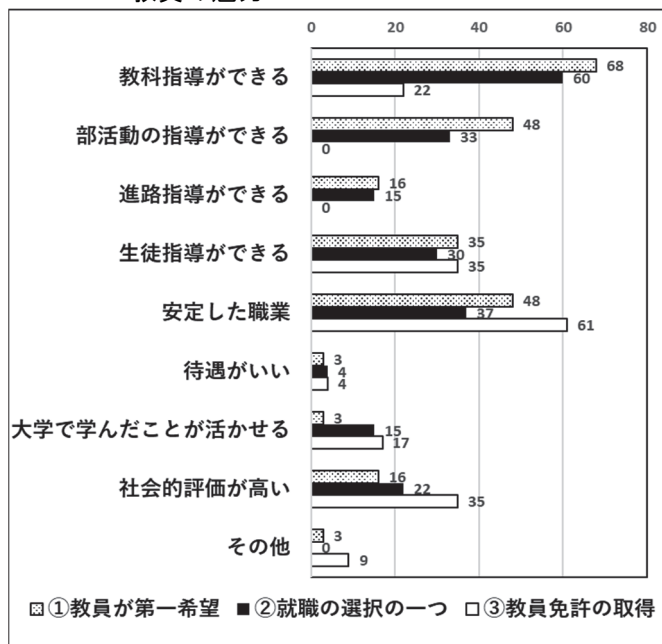


【図1】教員を希望する理由(%)

(3つまで回答可 対象は「3.2.1「教職論」を履修する理由」で①・②を選択した58名)

「やりがい」と「あこがれの先生がいた」が抜けて多い。中学・高校の体験が大きく影響していると考えられる。

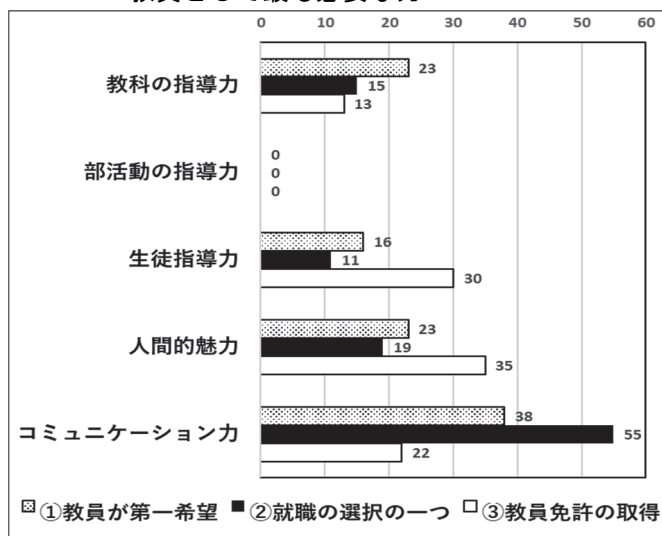
3.2.4 教員の魅力



【図2】教員の魅力 (%) (3つまで回答可)

①・②は「教科指導」・「部活動の指導」等のやりがい
が上位を占めるが、③は「安定した職業」が最多であり、
顕著な違いが分かる。

3.2.5 教員として最も必要な力



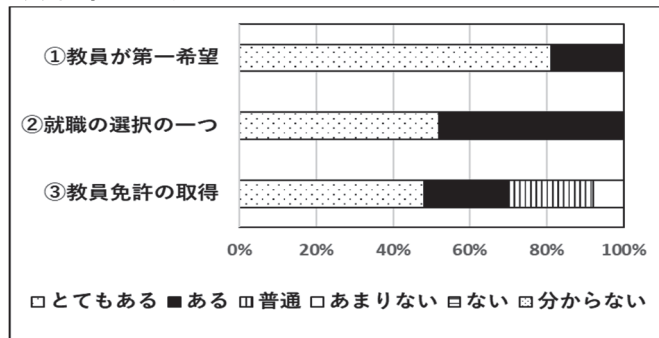
【図3】教員として最も必要な力 (%)

「コミュニケーション力」は、現在、多方面から教員
として必要な力として指摘されているので、①・②はこ
のことを十分に認識していると考えられる。

愛知県教員育成指標（平成 29 年 11 月策定）の中
でも、教員の素養として「自分の考えを伝えとともに、
周囲の状況や相手の思いを踏まえ、共通理解を図りな
がら、協働的に行動する」として、コミュニケーション
力の大切さをあげている。

3.2.6 他の職業と比較した教員のイメージ

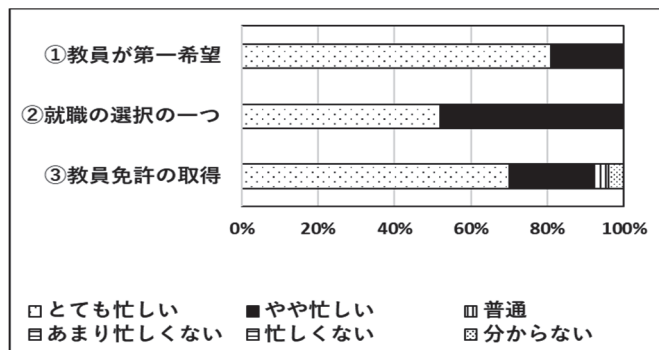
(1) 仕事のやりがい



【図4】イメージしている仕事のやりがい (%)

当然の結果であるが、①・②は教員のやりがいを強
く感じているので、「とてもある」・「ある」で 100%を
占めている。この気持ちを維持・高めることができるよ
うに指導しなくてはならない。

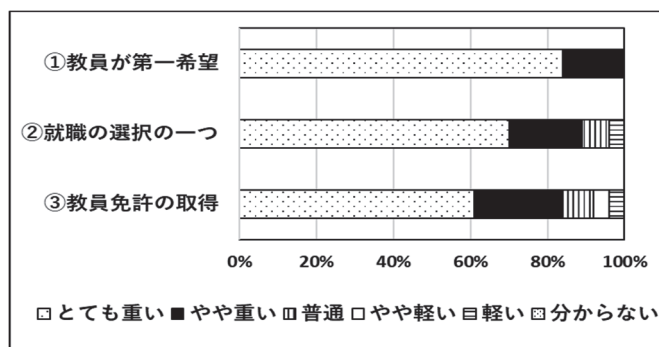
(2) 仕事の忙しさ



【図5】イメージしている仕事の忙しさ (%)

①・②は「とても忙しい」、「やや忙しい」で 100%を
占めていて、忙しいことを覚悟して教員を希望してい
ることが分かる。

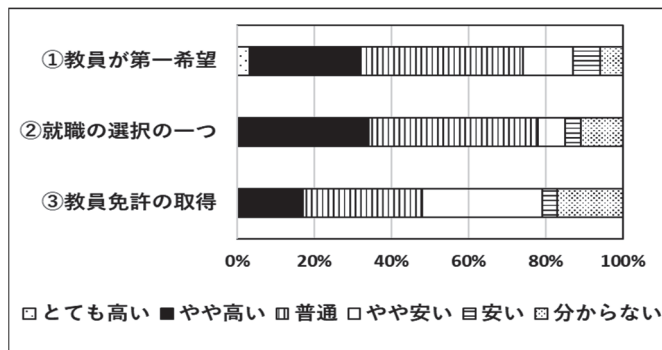
(3) 仕事の責任



【図6】イメージしている仕事の責任 (%)

①・②・③ともに、教員の仕事の責任の重さを強く感
じている者が大多数を占めている。

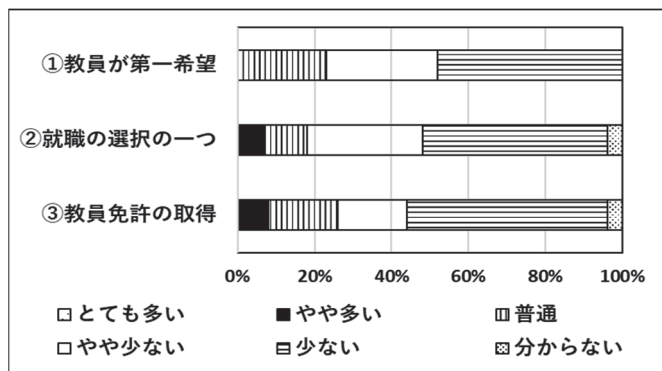
(4) 給与



【図7】イメージしている給与 (%)

①・②ともに、「とても高い」・「やや高い」・「普通」の合計が70%以上であるが、③は「やや安い」・「安い」が3分の1を占めており、マイナスイメージが①・②より大きい。実際に愛知県の場合、大学を卒業した小・中・高校の新任教員の給与は月収約24万6千円である。¹⁾

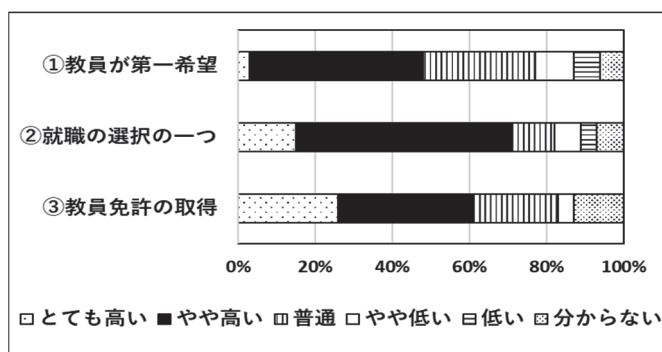
(5) 休み (休暇)



【図8】イメージしている休み (休暇) (%)

①・②・③ともに「やや少ない」・「少ない」で70%以上を占めていて、「(2)仕事の忙しさ」と一体を成している。

(6) 社会的評価

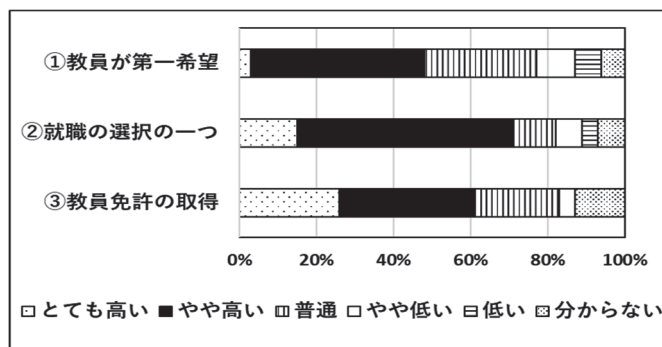


【図9】イメージしている社会的評価 (%)

①は「とても高い」・「高い」を合わせて50%弱であり、②・③と比べて低く見ている。自分が就きたい職業に対しては厳しい目で見ていると考えられる。

3.2.7 「教職論」の授業について

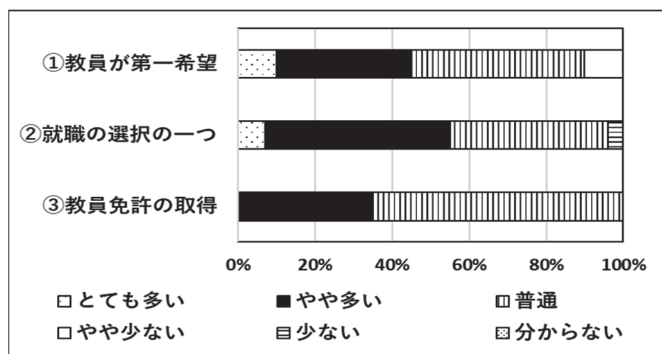
(1) 学習内容の難易度



【図10】他の教科・科目と比較した学習内容の難易度 (%)

③は難しいと感じている者が多い。使用している教科書は事例が豊富に扱われていて、学生にとり読みやすいものであると考えている。意欲から起因するのか不明だが、難しいと感じて忌避することのないようにしなければならない。

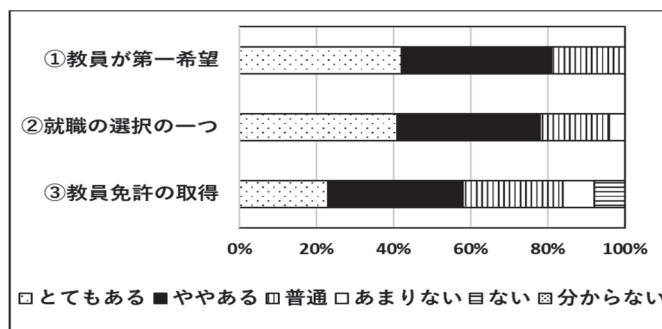
(2) 必要な学習時間



【図11】「教職論」の学習に必要な学習時間 (%)

①・②ともに「とても多い」・「やや多い」の合計で半数を占めるが、③が少なのは教職への熱意によるものであろうか。教職課程の学習が過負担となることのないよう、課題にも配慮しているつもりであるが、今後も十分に留意していきたい。

(3) 学習内容に対する興味・関心

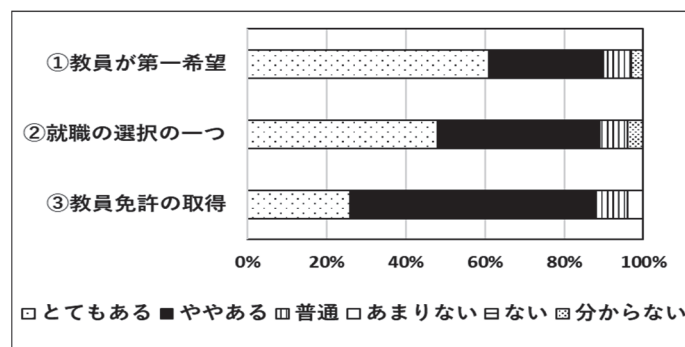


【図12】「教職論」の学習内容に関する興味・関心 (%)

①・②ともに「とてもある」・「ややある」の合計で80%を占めた。③は半分強に留まり教職への意欲を考慮す

れば当然とも言えるが、すこしでも高める努力をしていきたい。

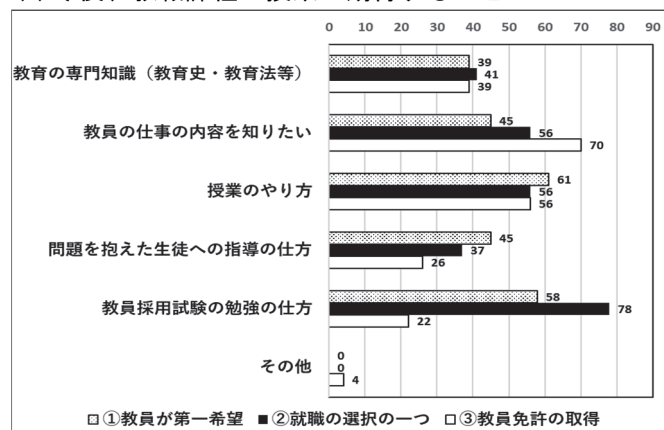
(4) 学びがい



【図 13】「教職論」の学びがい (%)

①・②・③ともに「とてもある」・「ややある」の合計が 80%を占めたことは、学ぶ内容に価値があるとの認識であると考えられる。前項の「学習内容に対する興味・関心」とも深く関連するが、授業では毎時間、実際に学校現場で起こっている事例を紹介し、学生たちが教員としてどのように対処したらいいかを、想像力を働かせて考えさせることに努めた。学生たちからも、今まで知らなかった、知っているつもりでも分かっていなかった学校の状況及び教員の仕事について理解が深まり、考えてみることで自分が楽しいとのコメントが多くみられた。「4.3 教員への適性について(事例問題の研究から自己を見つめる)」参照)

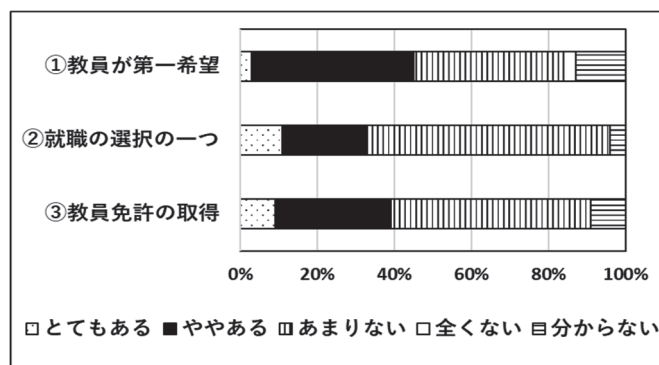
(5) 今後、教職課程の授業に期待すること



【図 14】教職課程の授業に期待すること (%)

①・②では「教員採用試験の勉強の仕方」が上位にあるのは当然と言えるが、①・②・③ともに「教員の仕事の内容」・「授業のやり方」が多いことを、今後の「教職論」を含めた教職課程の科目の指導に反映しなければならない。

(6) 今後、教職課程を履修するうえでの不安・心配



【図 15】教職課程を履修するうえでの不安・心配 (%)

①・②・③ともに「とてもある」・「ややある」は 40%前後で大差はないが、各々の理由は以下の通りである。

①・②の理由の多数を占めたのは

- ・教員採用試験 (合格できるか、対策の仕方等)
- ・教員への適性 (自分は教員に向いているか)

③の理由の多数を占めたのは

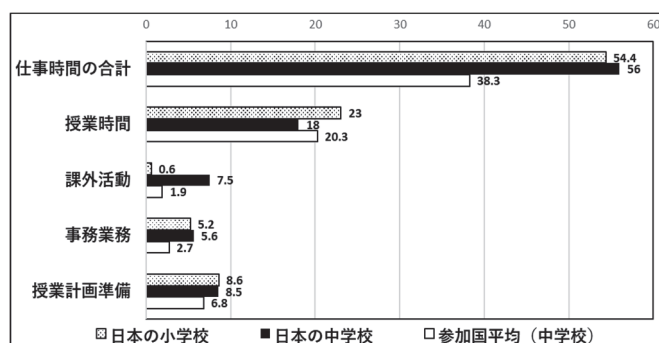
- ・今後、続けていくことができるだろうか。(工業の専門の学習とのバランス、自分の意欲)

4. アンケート結果に対して

アンケート結果の分析を基に、教職に対して学生たちが抱えているマイナスイメージの払拭と不安の解消策を考えたい。そこで最近の国及び愛知県教育委員会の取組と本学の教職課程の指導内容をみてる。

4.1 教員の忙しさ (休みが少ない)

教職が“ブラック”であると言われて久しいが、実際には、他の職種、民間企業にも忙しさや厳しさがあり比較は難しいだろう。ただし、「教員は忙しい」というイメージだけが先行しないように、客観的資料を示していく必要があると考えている。「TALIS 2018」では、日本の教員の仕事量は参加国中で最も長く、中学校の課外活動の指導時間が特に長い。【図 16】



【図 16】OECD 加盟国等 48 か国・地域と比較した教員の 1 週間当たりの仕事時間 (「我が国の教員の現状と課題-TALIS 2018 結果より」²⁾)

4.1.1 文部科学省の主な取組

平成31年1月、中央教育審議会から「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」が取りまとめられた。³⁾ この要旨を抜粋すると

(1) 我が国の学校教育

世界トップ水準の高い成果を上げている。しかし、教師の長時間にわたる献身的な取組の結果ならば、持続可能ではない。

(2) 働き方改革の目的

教師が我が国の学校教育の蓄積と向かい合って自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、効果的な教育活動ができるようにする。

(3) 勤務の現状

学校種、地域性、学校の規模などにより異なるが、中学・高校では、生徒指導、進路指導、部活動に関わる時間が長い。さらに、事務業務、保護者・PTA・地域との連携事業などがあるので、勤務時間内での授業準備の確保が難しく、授業準備は生徒の下校後や、自宅へ持ち帰って行うことになる。また、学校の組織運営体制が未整備、子どものためにという使命感・責任感をもつ教師の意識なども、業務が整理・縮小できない要因とされている。

そして、勤務時間管理に関しては、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が制定された。この後、令和元年12月、「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律」が成立・公布され、勤務時間の上限時間の指針が策定された。

- ・ 1か月の時間外在校等時間 45時間以内
- ・ 1年間の時間外在校等時間 360時間以内

4.1.2 愛知県教育委員会の主な取組

国の方策を受けて、愛知県教育委員会が近年、進めてきた取組は以下のとおりである。⁴⁾

(1) 平成29年3月 「教員の多忙化解消プラン」を策定し、勤務時間外の在校時間が月80時間を超過する教員を令和元年度までに0%とする目標を示した。

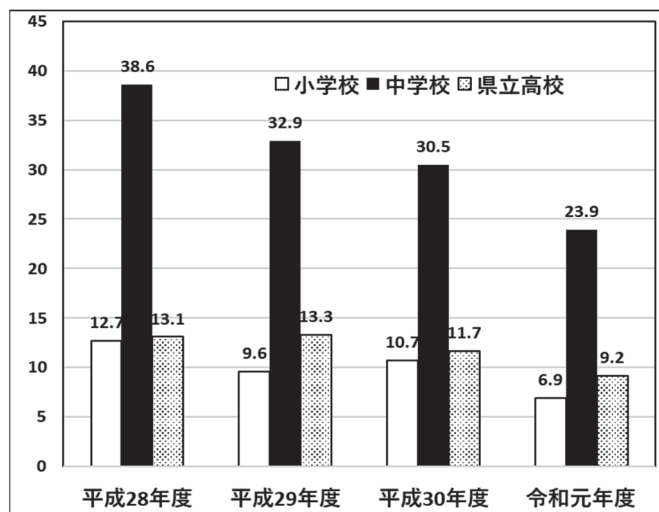
(2) 平成30年9月 「部活動指導ガイドライン」を策定し、より効果的で持続可能な部活動の運営を目指し、これからの部活動指導の方向性、適切な運営・指導が示された。

(3) 平成31年3月 「学校における業務改善の手引き」を作成し、各学校での具体的な手法を紹介した。

(4) 令和3年5月 「県立学校における働き方改革ガイ

ドライン」を策定し、勤務時間外の在校等時間の縮減に向けての課題や学校の取組例を示した。

このような取組により、勤務実態は少しずつではあるが改善されている。【図17】



【図17】勤務時間外の在校時間が月80時間を超過している教員の割合⁵⁾ (%)

4.2 教員採用試験

1年生の学生にとり、3年後に受験する教員採用試験はずいぶん先のことも思えるだろうし、試験内容もイメージが湧きにくいものであるのも、漠然とした不安に囚われていると思われる。早い段階で、試験のイメージを描けるようにして不安感を無くすことを考えていきたい。

4.2.1 教員採用試験の現状

(1) 筆記試験

教職教養、一般教養及び小論文である。教職教養は教育原理・教育法規・教育心理・教育史などの分野から幅広く出題されるが、内容的には基本的事項である。準備すべき範囲の広さに委縮しないためにも、基本事項を精選し、時間的にゆとりをもち取り組む必要がある。一般教養も幅広い分野から出題されるが、英語・数学・国語などは中学から高校1年の内容が主であるので、大学の人間科学科目に意欲的に取り組むように指導したい。小論文は、課題文の正確な読み取りと文章を書く習慣づけが必要である。教職課程の科目の授業の中で、テキストを丁寧に読むことと、数百字程度の文章を書くことに日常的に取り組ませたい。

(2) 面接試験

自治体により異なるので、各々の特色に応じた個別指導が必要である。

4.2.2 本学での指導計画案の概要

昨年度以来、コロナ禍の中で十分な指導ができなかったのが実状である。学生の不安解消のため、1年次に明確な到達目標を含んだ指導計画の概要を示し、学習のペースメーカーとなる指導を実施したい。

- 1年次 ガイダンス（教員採用試験の内容と実状、試験対策について）
- 2年次 教科専門についてのガイダンス
小論文指導の開始
- 3年次 教職教養の試験対策の開始
- 4年次 面接試験指導

4.3 教員への適性について(事例問題の研究から自己を見つめる)

自分が教員に向いているのか、適性はあるのだろうかという不安に対する直接的な回答や対策は難しいと考えている。理屈の上での説明も必要ではあるが、大切なことは、学生が自分自身をよく見つめて、自己理解をしていくことである。学校現場にある具体的事例に多く触れ、教員の仕事の特性を知ることにより、職業としての教員に対する理解を深めることができる。そして、自分がそのような特性をもつ職業に一生、従事していくことができるかを考えるようになり、自分自身を見つめ直し自己理解を深めことが、教員についての適性を考えることにつながる。そこで、学校現場でよくある事例を紹介し、学生に自らの課題として考えさせることが有効であると考えます。

4.3.1 事例問題

(1) 本年度扱った事例問題

本年度、「教職論」の授業で以下の12の事例問題を扱った。実例を基に部分的に創作している。

- ①ある授業風景・・・子どもを萎縮させた教師の一言
- ②新任教師の授業デビュー・・・あなたならどうする？
- ③授業研究会の風景・・・頑張って研究授業をしたのに
- ④生徒の言い分・・・私ばかり注意する
- ⑤保護者会・・・予想外の保護者の言動
- ⑥教育実習・・・ベテラン教師の冷や汗の出る思い出
- ⑦初任校への思い・・・あの学校で良かった
- ⑧決断の時・・・主任を引き受けるかどうか
- ⑨転任校での戸惑い・・・前任校との大きな違い
- ⑩研修への意欲・・・大学院で学ぶ
- ⑪突然の変更通知・・・怒りと情けなさ
- ⑫育児休業・・・どちらがとる？

これらのテーマで描かれた事例（800～1000字程度）

を読み、事例に関する設問に回答する。設問の最後には自分が当事者の教師ならどうするか、という問があり、想像力も働かせて考えさせることを意図している。

(2) 事例問題例

第4時限目「授業から学ぶ」（「5.1.2 授業構成」参照）で扱った事例問題を紹介する。

【新任教師の授業デビュー あなたならどうする？】

下記の文を読んで問に答えなさい。（正解はありません。自分がこの場にいると想像して考えましょう。）

今日は新任教師Aの初めての授業である。赴任した高校は1学年6クラスの中規模校。Aが授業を担当するのは3年生であり、2クラスは進学、4クラスは就職を希望する生徒で構成されている。今日の授業は就職希望の生徒からなる3年5組である。昨夜も遅くまで、Aは授業の準備をしていた。50分間の授業の最初の10分は自己紹介をしよう。自分の高校・大学時代のことも簡単に触れ、自分がなぜ、この教科に興味をもち教師になったかを話そう。そして、次の10分で教科書・資料集の使い方などの授業の進め方を説明する。そうすれば、残りの30分、授業の内容に入ることができる。職員室でこのようなことを頭で反復しながら、板書する事項を書いた授業ノートを確認していた。

チャイムと同時に授業を開始するようにと先輩の教師たちから言われていたので、2分前に職員室を出て教室の扉を開けた。ざわざわとした中で、①多くの生徒の視線を浴びているのを感じているとチャイムが鳴り、室長の「起立」の号令で生徒たちは立ち上がり、「礼」をして静かに着席した。Aは内心、②「上手に進んでいる」と安堵しながら自己紹介を始めた。

自己紹介を始めて3～4分過ぎて、Aが教科に興味をもった理由を話していると、突然、元気そうな男子生徒Bが大きな声で言った。

③「先生、そんなに頑張らなくていいよ。俺たちみんな就職だから」

Aは驚いたが、④顔には出さないようにと自分に言い聞かせながら、次の言葉を考えようとした。そうしたら、一番前に座っている女子生徒Cが

⑤「先生、みんなで楽しく遊ぼう！」

と続けて発言した。⑥生徒たちは、微笑みながらAをじっと見つめている。この状況にAは言葉が出なくなったが、黙ってはいけなそうと思いながら⑦次の言葉を考えていた。

問1 ①で生徒たちはどのような気持ちなのでしょう。

問2 なぜAは②のように思ったのでしょうか。

問3 男子生徒Bが③のように言ったのはなぜだと思いますか。

問4 Aが④のようにしたのはなぜでしょう。

問5 女子生徒Cが⑤のように言ったのはなぜだと思いますか。

問6 ⑥では生徒たちはどのような思いでいると想像できますか。

問7 ⑥の状況をAはどのように感じているのでしょうか。

問8 あなたなら、⑦でどのような言葉を考えますか。

新任教師の多くが経験する一種の通過儀礼のような事例である。特に(3)の問にある男子生徒Bの発言は、解釈は様々にできるもので、学生たちの回答も以下のように大きく2つに分かれた。

・「新任の先生に好意的で、先生の緊張感をほぐそうと配慮している。」

・「新任の先生に対する悪戯心から、先生を戸惑わせて、予定通りに授業をやらせようとしない。」

これは想定していたものであり、学生たちが事例の設定場面に気持ちを入れて想像力を働かせた結果であると考えている。学生たちからは、中学・高校時代に、似たようなことがあったことを思い出したという感想も幾つかあった。

4.3.2 事例問題についての学生の主な意見・感想

事例問題は学生たちから以下のような評価を得ている。

- ・今まで考えてもこなかったことなので悩むが、やりがいがある。
- ・正解が無い問題を自分なりに考えるのが面白い。
- ・いつも頭を悩ませられるが、考えることにより教員のイメージが湧いてきた。
- ・現場の教員の体験をもとに学ぶことで、リアリティが増して良い。
- ・自分の中学・高校時代が思い出されて、当時の先生たちの苦労や心遣いが分かった。
- ・教員の立場としての考えや思いを知ることができ、お世話になった先生に対してあこがれの気持ちが強まり教員志望の気持ちも高まった。
- ・人の心の中を学ぶことができるので、教員になると役立ちそう。
- ・他の学生たちの回答も読めるので、自分との受け止め方や考え方の違いに刺激を受けている。

5. 「教職論」の実践と改善案

本年度、実践した「教職論」の授業概要を紹介し、これに対して、アンケート調査により明らかになった課題の解消を図った「教職論」の改善案を示したい。

5.1. 本年度の「教職論」の到達目標と授業内容

5.1.1 到達目標

- ①教師は社会的にどのようなことが期待され、仕事にはどのような特徴があるかを説明することができる。
- ②授業を計画し実践するにはどのようなことが必要で

あるかを、カリキュラムの構造、テーマの設定、子どもとの関係、教師の姿勢という観点から説明することができる。

③生活面での指導を行っていくにはどのようなことが必要であるかを、子どもとの関係、子どもの成長、教師の姿勢という観点から、説明することができる。

④教師集団として取りくむことの意味、取りくむ上で中核になること、および課題について説明することができる。

⑤歴史的、社会的に見て、教師像、教職という仕事はどのように捉えられてきたか、これからどのように考えていったらよいかを説明することができる。

⑥教員免許状取得に必要なことを理解し、教員になるまでの計画を立てることができる。

⑦研修の意義および職業倫理について理解し、教職を自身の人生の課題として考えることができる。

5.1.2 授業構成（15 時間）

『新しい時代の教職入門』（有斐閣アルマ）を教科書として授業を進めた。

①教員免許状を取得するまで

この授業のガイダンス 本学における教員養成の目標・計画 教員免許状取得までに必要なこと

②教師の日常世界へ

社会から期待されていること 法令で規定されていること 教職という仕事の特徴 他の職業との違い

③授業をつくる

学習指導要領とは 授業を構成しているもの 授業をデザインし実施する上で必要なこと

④授業から学ぶ

授業運営に求められる教師の力・視点 教育評価の意味 研修の意義・制度・具体的な方法 教師自身が学び続けることの意義

⑤カリキュラムをデザインする

カリキュラムとは 授業の改善と教師の力量形成 コーディネーターとしての役割 授業例を構想する

⑥子どもを育む(1)

問題行動の意味や思春期の特徴の把握 傾聴などを手がかりに 教師の姿勢や指導を考察

⑦子どもを育む(2)

共感、教師の持つ権力性、生徒を抱え込むことの危険性などを手がかりにして、教師の姿勢や指導を考察

⑧生涯を教師として生きる(1)

教育実習とはどういうものか、それまでにどんな力をつける必要があるか、など

⑨生涯を教師として生きる(2)

新任期にはどのような特徴があるか 求められるこ

と 想定される危機

⑩生涯を教師として生きる(3)

経験を積むに従って期待されること 想定される危機 自身の結婚・子育て・介護を視野に入れて考察

⑪同僚とともに学校を創る

教職員がチームで取り組むとはどういうことか そのために必要なこと 互いに学び合うことの必要性

⑫教職の専門性

教職の専門性とはどういうことか そのために身に付けなければならないこと 教職開放性について

⑬時代の中の教師

近代の教育制度の変遷 教育改革の推移とこれからの教師

⑭教師の仕事とジェンダー

教育の中で女性はどう位置づけられてきたか どのような教育課題があるか

⑮教員の身分と服務

教員の陥りやすい不祥事、それに対する懲戒処分のか概況

5.1.3 授業展開 (Teams によるオンデマンド方式の遠隔授業)

(1)教材

- ・教科書 (1 回の授業範囲は 10～20 ページ)
- ・授業プリント (A 4 版 4～5 ページ)

前回の問の回答例、教科書の内容に関わる問、自作の事例問題、前回の授業に対する学生の回答・質問・意見・感想 (10 名ほどのものを学生の手承のもと掲載) より構成。

- ・提出プリント

A4 版 1～2 ページ 問の回答と授業に関する質問・意見・感想を記入して提出する。

(2)授業の流れ

①予習

教科書を読んで、書けない漢字を確認

②授業

- ・前回の問の回答を確認
- ・漢字の書き取り (10 問 自己採点)

漢字力は社会人としての基本だと考えている。特に、教員にとり、授業での板書、生徒の作文指導及び事務的業務などで直面する課題である。また、教科書に掲載してある教育用語を定着させることもでき、教員採用試験対策にもなる。

・教科書を読みながら、授業プリントの問に答える。問は教科書にある語句の説明、穴埋めなどであり、教科書を読めば確実に回答できるもの。

- ・授業プリントにある事例問題を読み、自分の考え、意

見を記述。(「4.3.1 事例問題 (1)本年度扱った事例問題」参照)

・授業に関する質問・意見・感想を記述。(「5.1.4 学生の回答・質問・意見・感想の掲載」に詳述)

③前回の授業の振り返り

授業プリントに掲載してある、他の学生の前回の授業の回答・質問・意見・感想に対する、自分の意見・感想を記述。

5.1.4 学生の回答・質問・意見・感想の掲載

遠隔授業なので、学生たちの紙上での意見交換の場として設定した。自分の考えが及ばない人の考え、意見を知ることができてためになる、読むのが楽しいという学生たちの感想が多い。

また、対面での討議・意見発表とは異なり、文字にして表すことは残るものなので、自分の考えを整理して、言葉を選び文を整えて表現する習慣づけにもなると考えている。

5.2 「教職論」の改善案

アンケート結果を反映して、理想とする内容を盛り込んだ「教職論」の授業構成を示す。

5.2.1 改善の視点

- | |
|-------------------|
| (1)ガイダンス機能の強化 |
| (2)教職の正しい現状認識 |
| (3)教員としての適性を考えさせる |

(1)ガイダンス機能の強化

教職課程の科目の履修手続き、教員免許状取得などは従来通り、学生に理解させなければならない。さらに、教職課程の各科目の概要、教員採用試験の仕組み、教員免許状取得までの大学4年間の流れなどを理解させ、学生の不安感の解消につなげたい。

(2)教職の正しい現状認識

従来は、教職はどういう仕事をするのかということに関して、授業を中心にした生徒に向き合う業務の解説を主な内容としていた。これらの教科指導、生徒指導・進路指導・教育相談などについては、具体例を基に理解を深めさせたい。これらに加えて、教員の待遇、服務、業務の内容及び勤務実態などにも触れて、仕事としての教職の理解を深めさせたい。

(3)教員としての適性を考えさせる

「4.3 教員への適性について(事例問題の研究から自己を見つめる)」で説明したとおり、学校現場にある具体的事例に多く触れ、それらを自分自身に関わることとして考えさせる。この繰り返しにより、自己理解を深め教員としての適性を考えさせたい。

5.2.2 授業構成(15時間 ②～⑮は事例問題を扱う)

①教職課程について

本学における教員養成の目標と計画 本学の教職課程の仕組みと特徴及び履修上の留意事項について

②教員養成と教員採用試験

教育実習の仕組み 教員免許状取得までに必要なこと 教員採用試験の実状とその対策について

③教員の身分と服務

教員の身分と服務についての法的規定 不祥事と懲戒処分について

④職業としての教員(待遇・福利)

教員の給与、休暇、福利厚生について

⑤教員の仕事と責任(1)(教科指導)

学習指導要領、年間指導計画、学習指導案について

⑥教員の仕事と責任(2)(生徒指導・進路指導)

指導の意義と課題、校内指導体制について

⑦教員の仕事と責任(3)(特別支援教育・道徳教育など)

それぞれの教育活動の現状と課題について

⑧教員の仕事と責任(4)(学校組織)

校務分掌、学級経営、部活動、PTA及び地域との関わりについて

⑨教職の歴史

教育制度変遷の中での教員の在り方について

⑩教員の資質と能力(1)(求められるもの)

学生時代に育成すべき資質と能力について

⑪教員の資質と能力(2)(学び続ける教員)

研修の意義・制度 教員が学び続ける意義について

⑫教員として生きる(1)(教員の1日・1年)

学校での1日の流れ、1年間の主な業務について

⑬教員として生きる(2)(新任期)

新任期の特徴、課題及び危機について

⑭教員として生きる(3)(ミドルリーダーとして)

経験を積むに伴う役割と責任、危機について

⑮現代から未来へ

現代の課題 将来に予想される危機について

6. おわりに

本年度、やり甲斐とその意義を強く感じながら、本学で「教職論」を担当してきた。学生たちの熱意ある姿勢に刺激され自分自身を鼓舞しつつも、40年近くに及ぶ自分の高等学校での教員経験を、上手く咀嚼して机上に提示することの難しさを感じていたことが、本研究の動機でもある。

教職を巡る現状は、教員希望者の減少という、将来が危惧される厳しい状況にある。教員希望の学生を一人でも多く育て、その希望が実現できるようにするため

に、来年度は改善案で示した授業構成で「教職論」の授業に取り組みたい。そして、その成果と課題を確認し、「教職論」のさらなる改善に努めていきたい。

参考文献

本稿執筆における調査・研究のために参考にした文献は以下の通りであるが、特定の箇所の引用をしたのは1)～5)のみであるので、6)以下は本文中に引用箇所を示してはいない。

- 1) 愛知県教育委員会教職員課(2021). あいちの先生まるごとガイド. ネットあいち
- 2) 文部科学省(2020). 我が国の教員の現状と課題 TALIS 2018 結果よりー. OECD 国際教員指導環境調査(TALIS)2018 報告書 vol.2 のポイント. 14.
- 3) 中央教育審議会(2019). 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申). 1-77.
- 4) 愛知県教育委員会(2021). 学校における働き方改革の推進に向けて. 教員研修の手引き. 14-15.
- 5) 愛知県教育委員会(2021). 学校における働き方改革の推進に向けて. 教員研修の手引き. 16.
- 6) 秋田喜代美・佐藤学編著(2015). 新しい時代の教職入門(改訂版). 有斐閣アルマ
- 7) 羽田積男・関川悦雄編(2016). 現代教職論. 弘文堂
- 8) 樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著(2020). 教育課程論・教育の方法と技術論. 学事出版
- 9) 菱村幸彦(2015). 優しい教育法規の読み方. 教育開発研究所
- 10) 萩生昭徳(2018). 「教職の意義等に関する科目」としての「教職論Ⅰ」の実践ー教材プリントの項目と授業目標及びその展開を中心にー. 愛知学院大学教職センター年報 第1号(2018年度). 55-72.
- 11) 渡津英一郎(2013). 教職課程を履修する学生の受講動機とその後の選択ー教職課程受講登録から採用試験合否までー. 愛知大学教職課程研究年報 第3号 2013. 71-84.
- 12) 渡津英一郎(2013). 受講登録前後における学生の教職への期待と取り組みー平成25年度春学期教職課程受講者の意識調査からー. 愛知大学教職課程研究年報 第3号 2013. 85-95.
- 13) 岡田圭司・梅村清春(2016). 愛知大学教職課程の学生における教職の志望度と志望理由の関係について. 愛知大学教職課程研究年報 第6号 2016. 147-152.
- 14) 丸山真名美(2017). 教職課程履修学生における「教育観」. 東海北陸教師教育研究 第31号. 15-21.
- 15) 木村竜也(2019). 工科系単科大学における教職課

程と専門課程との連携の実情. 東海北陸教師教育研究 第33号. 59-67.

- 16) 渡邊言美(2019). 学部教職科目「教職論」授業実践の成果と課題. 就実大学大学院教育学研究科紀要 2019(第4号). 97-111.
- 17) 文部科学省(2020). 学校における働き方改革の推進. 文部科学白書(2020). 98-103.